

〈三郷学の視点⑥〉

三郷学の実践

45. 「安心・安全な水」を届ける三郷の水道事業

市では、「三郷市水道事業ビジョン」づくりを進めています。

三郷市の水道事業は、昭和30年代に彦成、東和、早稲田の各地区に簡易水道が創設されたことに始まります。地域の発展とともに人口も増加し、昭和41年に市内全域を給水区域とする上水道事業を創設し、まもなく中央浄水場の通水が開始されました。

現在は、市内3か所の浄配水場から、総延長約570km布設された配水管により休むことなく「安心・安全な水」を届けています。

この環境を持続するためには、東日本大震災のような自然災害や、渇水、事故等の危機に対応できる「強い」水道の構築など、危機管理の対策を講じることが必要です。また、社会環境の変化にも柔軟に適応するため、長期的なビジョンが必要となります。

水道は、大切な地域資源であり、日常生活や経済活動において、「いつでも・どこでも・いつまでも」おいしく飲める、使用できる環境が求められます。今から50年後、100年後の将来を見据え、地域とともに「みさとの水道」を未来へつないでいくことが大切です。

